

いしかり砂丘の風資料館テーマ展

「海辺のおばけ? 石狩湾の蜃気楼」

石狩湾の蜃気楼をもっと知りたい方・実際に見たい方は、テーマ展をご覧ください! (22ページ参照)

日程 4/29(水・祝)~6/29(月)

いしかり
博物誌
137

今年も出る? 海辺のおばけ、蜃気楼

春から初夏。石狩市の海辺に、おばけの季節がやってきます—と言っても、幽霊や妖怪ではありません。蜃気楼のことです。冷たい空気と暖かい空気が層状に重なったとき、光の屈折によって、遠くの景色が実際より伸びて見えたり逆さまに見えたりすることがあります。これが蜃気楼です。特に、実景が上方に伸び上がる現象は「上位蜃気楼」と呼ばれ、地形や大気の状態などが限られた条件下でしか発生しない、珍しい現象とされています。

狩浜から上位蜃気楼の発生を確認しています。特に2014年は大規模な蜃気楼がこれまでにないほど多く見られました。蜃気楼といっても規模はいろいろで、小規模なものでは、通常の景色を知っている人が双眼鏡で見て初めて確認できる、という程度だったりします。ところが2014年は、小樽市の市街地にありもしない高層ビルが林立しているように見えたり、高島岬の沖に上下に細長い島が出現したように見える

日の天気予報にヒントは隠されています。風が弱く、気温がぐんと上がりそうな昼時、双眼鏡を持って海辺に出てみれば、「おばけ」に出会える可能性は高まりますよ。

(志賀健司)

日本では富山県魚津市が有名ですが、石狩湾沿岸でもときどき発生します。特に小樽市の中心部からは、高島岬や石狩湾新港が蜃気楼になって見えることが多く、高島の蜃気楼は昔から「高島おばけ」と呼ばれてきました。幕末、海上から高島岬を訪れた松浦武四郎も目撃し、記録に残しています。同じ石狩湾沿岸の石狩市では、近年まで観測記録はありませんでした。しかし2010年に観測・撮影に成功して以来、毎年数回、石

など、誰が見ても変な景色に気づくような大規模な蜃気楼が、4回も発生したのです。4月~6月のまだ海水が冷たい時期に、強い日差しで暖められた陸地からの暖気が静かに海上を覆う、という状態が例年より多く生じたことが原因のようです。蜃気楼は、冷たい海上の空気と、暖かい陸上の空気との出会いが生む、海辺ならではの自然現象。発生するかどうかはその日その日のちよつとした風向き次第ですが、毎

石狩浜から観測した蜃気楼



●高島岬の蜃気楼

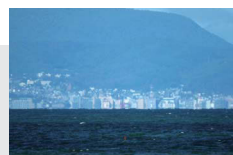
実際の景色

2014年▶
4月21日



◀2011年7月6日

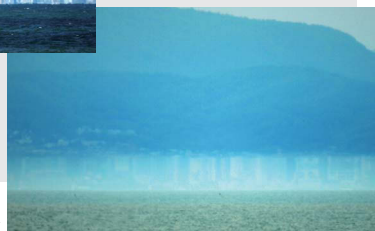
ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。



●小樽市街地の蜃気楼

実際の景色

2014年5月20日▶



志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。